

区内施設における苦情事例について

【事例】 寿司屋の従業員が床に手を付き、手洗いせずに配膳をしている

- 1 探知
令和7年3月28日、区内飲食店を利用した客からの申し出。
- 2 苦情内容
 - ・ 令和7年3月28日に当該店を利用したところ、板場とホールの間がカウンターで仕切られており、板場から外に出るときにカウンターをくぐっていたが、その際、床に手を付いていた。その後、手洗いをしないまま、お茶などの配膳をしていた。
 - ・ 板場に戻った後も同様に床に手を付いて戻っていたが、手洗いをせずに手袋をつけ寿司を握っていた。
 - ・ 不衛生であるため、注意してほしい。
- 3 調査内容
 - ・ 苦情について店長に事実確認を行ったところ、心当たりがあるとのことであった。
- 4 指導事項
 - ・ 手洗いについて、適切なタイミングで行うことを指導した。また、今回の件について、従業員に共有を行い、衛生管理に努めるよう指導した。

【事例】 カツ丼のカツが生だった。

- 1 探知
令和7年3月10日、区内飲食店を利用した客からの申し出。
- 2 内容
 - ・ 令和7年3月7日、カツ丼を喫食したところ、カツの内部が生であった。また、取り替えてもらったものも同様に生であった。
- 3 調査内容
 - ・ カツ丼のカツを上げる際は専用のフライヤーを使用し、一度に大量に揚げることはないため、油の温度が極端に下がるようなことはない。
 - ・ 揚げたカツを卵とじする際にあらかじめカットをするが、その際、火が通っているか確認している。
 - ・ 本社のマニュアルで定められたとおり、HACCPに沿った衛生管理について取り組んでおり、HACCPに沿った衛生管理の記録も適切に実施していることを確認した。
- 4 指導事項
 - ・ 当該店は新規開店したばかりでの店舗で、消費者の間で話題になっており、1日の来店者数も非常に多く、火の通りの確認を見落としてしまう可能性も否定できないため、引き続き十分に確認を行うよう指導した。